令和３年３月１８日

報道関係者各位

国立大学法人筑波大学
F1000 Research Limited

日本語にも対応した
世界初のオープンリサーチ出版である筑波大学ゲートウェイでの論文公開開始

国立大学法人筑波大学（学長：永田恭介）が F1000 Research社との契約に基づき開発を進めてきた筑波大学ゲートウェイ（※注1）が完成し、論文公開が始まりました。

これは、研究者が英語か日本語で論文が出版できる、世界初のオープンリサーチ出版ゲートウェイとなります。このゲートウェイでは、すべての成果がオープンアクセスで出版されるため、だれでも自由に読むことができます。また、プレプリントの利点（編集バイアスのない迅速な公開を提供）と質と透明性を保証するメカニズム（招待制の公開査読、アーカイブ化、書誌データベースへの収録）を組み合わせたF1000Research出版モデルを利用します。

すでに、英語論文の公開査読が始まっています。査読が完了すれば、Scopus等に自動で登録されます。日本語論文も、まもなく公開されます。

用語解説

（※注1）：「ゲートウェイ」

機関または組織向けにパーソナライズされたポータルのこと。

関係者のコメント

～永田恭介（筑波大学長）のコメント～

出版言語の垣根を超えた出版プラットフォームを作ることは、分野や地域の分断を超える手段の一つとして、大きな意味があると思います。筑波大学は総合大学として、人文社会学系の研究者の価値をより世界に知ってもらうために何かしら工夫していかなければならないと考えてきました。今回作った筑波大学ゲートウェイは日本語の論文の投稿も可能で、一定の条件を満たせば国際的な論文データベースに論文がインデックスされる仕組みです。（『ブランカ』VOL.7, 2021, p.16）

「科学者の手に、学者の手に、研究の主体を戻さなければいけない」、我々が投げかけたい最も重要なメッセージはこれに尽きます。（『ブランカ』VOL.7, 2021, p.7）

～レベッカ・ローレンス（F1000 Research社, Managing Director）のコメント～

私たちと筑波大学の取り組みはアジアやそれ以外の国々から大きな注目を集めています。私たちはいま、より広い視野に立って多言語出版の可能性を見つめています。これは、学術出版を学術コミュニティのニーズと合致させる、というF1000の信念にも合っています。（『ブランカ』VOL.7, 2021, p.30）

～矢作直也（医学医療系准教授）のコメント～

この度はF1000Research・筑波大学ゲートウェイのローンチ、おめでとうございます。

今回投稿させて頂きました論文は、これまでに5つの雑誌から掲載を拒否されてきた論文でしたが、筑波大学ゲートウェイではスムーズに掲載が決まり、レビューアーからも高いご評価を頂くことができました。また、「この論文をぜひ読んで頂きたい」という方々をレビューアー候補として編集部に推挙させて頂き、結果的にそういう方々に実名でレビューして頂けたのも大変幸せな経験でした。「rejectされない安心感」「読んで欲しい方にレビューしてもらえる」この2つのメリットは非常に大きく、ちょっと病みつきになりそうです。

～伊藤秀明（人文社会系助教）のコメント～

筑波大学ゲートウェイに投稿した動機は迅速な査読体制と投稿者による査読者の推薦という形式に興味を持ったことにあります。これまでの投稿では、数ヶ月、長い時には数年、投稿しては査読者の評価を待つという受け身な姿勢を歯がゆく感じることもありました。筑波大学ゲートウェイでは、同じく査読者の評価を受けるという点は変わりませんが、論文が査読前から公開されることにより査読者のコメントも多様な研究者の一つであり、その評価を論文に反映させ、さらに深めていくということが可能になったと感じたからです。また、投稿者による査読者の推薦も上記のような点を考える際に、世界中の研究者に投稿者が主導して意見を求めることができるという点で、これまでの受け身な査読体制とは異なる大きなメリットだと感じています。

～東野篤子（人文社会系准教授）のコメント～

2020年はコロナ禍のため、せっかくプロポーザルがアクセプトされていた海外の学会がすべてキャンセル・延期となってしまいました。このため、英語論文を口頭発表しフィードバックを得て、査読付ジャーナルへの投稿準備を進めるという通常のプロセスがストップしてしまい、困っていたところ、同僚が筑波大学ゲートウェイの投稿を勧めて下さいました。

査読前の論文をウェブ上に掲載し、その後にコメントをもらうという筑波大学ゲートウェイは、私が主に論文を発表してきた海外学会の方式とも近く、すんなりとなじむことが出来ました。また論文を筑波大学ゲートウェイに投稿して掲載されるまでの期間、F1000社の編集チームが非常に丁寧なエディティングやフォーマティングを行ってくれたのも、大変ありがたいことだと思っております。

2021年3月2日に論文が掲載されてから、本日（同8日）でちょうど1週間となりますが、特段の宣伝をしていなくとも現段階ですでにページビュー数が100を超えており、研究成果発信のための非常に強力なツールであると実感しました。唯一のネックは投稿費が高額（1350ドル）でなことだと思いますが、今回は人社系による投稿費支援に採択していただけ、大変助かりました。コロナ禍における新しい研究発信形態のひとつとして、今後とも活用したいと考えております。

～秋山 肇（人文社会系助教）のコメント～

新型コロナ対策について、日本国憲法の観点から研究しています。社会的関心の高いタイムリーな話題ですので、日本の一般の方にも読んでいただける日本語論文を即時的に発表したいと考えていました。また、自然科学の研究者も使用するF1000Researchの一部である本ゲートウェイに掲載されると、新型コロナを研究するグローバルな研究者にも、英文抄録を通して日本の法的な議論に触れていただけるため、意義があると感じ、本ゲートウェイに投稿しました。即時的に日本社会とグローバルな研究者双方に研究成果を発信できるのが、本ゲートウェイの魅力です。また、公開で査読が行われますので、恥ずかしくもありますが、学生に論文執筆のプロセスを見せられるのもメリットだと思います。

参考 URL

＜筑波大学ゲートウェイ URL＞
https://f1000research.com/tsukuba
＜筑波大学 URL＞
http://www.tsukuba.ac.jp/
<F1000Research 社 公式サイト(英語)>
https://f1000research.com/
<F1000Research 社 Twitter(英語)>
https://twitter.com/F1000Research
<筑波大学ゲートウェイ特集号『ブランカ』 URL>
https://blankaonline.com/ja/feature/volume-7-ja/

問合わせ先

森本行人(もりもと ゆきひと)
筑波大学 URA研究戦略推進室 リサーチ・アドミニストレーター
〒305-8577 茨城県つくば市天王台 1-1-1
E-mail: ut-gateway@un.tsukuba.ac.jp
Tel: 029-853-4434(当面の間テレワークのためメールでお問い合わせください)

新道真代(しんどう まさよ)
筑波大学 URA 研究戦略推進室 チーフ・リサーチ・アドミニストレーター
E-mail: ut-gateway@un.tsukuba.ac.jp

Leanne Elliott(リアン・エリオット)
F1000 Research Limited Head of Communications
Email: leanne.elliott@f1000.com